

小池 宏明 牧師

### \*ヨシユアと共に主に従い通したカレブ

今日、取り上げる人物はカレブである。かつて、12部族から12人の族長がカナン偵察をしたときに、ヨシユアと共に「主なる神様に従ってカナンに上ろう」と主張した信仰者がユダ族出身のカレブである。彼はカナン偵察隊に加わった時が40歳。それから45年後、彼は85歳になっても昔と変わりなく、壮健でまだまだ戦うことができると告白した。高齢のカレブが、どうして長年に渡り、主に用いられて来たのだろうか。

第一に、主の約束を信じ従い通したからである。(14:8, 9, 14) カレブは45年前のモーセの約束「あなたの足が踏む地は必ずあなたの相続地となる」という言葉をずっと覚えていた。カレブはヨシユアに、あの時踏んだ土地へブロンを、自分と自分の子孫の相続地にしたいと申し出た。

私たちも信仰生活の中で、強烈な御ことばとの出会い、あるいは兄弟姉妹と出会い、その交わりの中で語られた忘れることができない言葉があったらろう。この機会に、もう一度振り返って、その意味を主なる神様に求めてみたい。

カレブが、長年に渡り、主に用いられる第二の理由は、共に労する仲間がいたからだ。カナン偵察の経験者は、ヨシユアとカレブの二人だけしか生き残っていない。また、二人には約束の地カナンを治めていくという共通の使命があった。二人は支え合い、助け合いながら、困難な戦いを乗り越えて来たことだろう。

私たちにも、信仰生活を共にする神の家族が与えられている。もちろん、「神様と私」という「一対一の関係」は大切だが、たった一人では、この信仰生活を闘い抜くことができない。主なる神様が与えて下さる教会が必要なのだ。

### \*主に従い通す信仰者を目指して

私たちの周りには、主なる神様、救い主イエス・キリストに従い通してきた信仰者たちが、たくさんいる。「従い通す」という言葉は、「満たす」、「充満する」と言う意味がある。「信仰を全うする」ことだ。「今日は主に従う、しかし明日はそうではない」、また「信仰生活を続けるとか、辞めるとか」そういう次元の話ではない。そもそも、自分の意志や力を越えて、主なる神様が、私のもとに来て下さり、私を救い出そうと、与えて下さった信仰なのだ。古河教会には、主に従い通している信仰者たちがおられるので、私たちも見ならって生きて行きたい。